



もう一度のお正月

今年の仕事始めは、



一月四日朝カマボコの入荷で
始まりました。



お正月用品のカマボコと伊達巻を、
鈴廣かまぼ(株)さんと(有)佐藤修商店さん
が提供してくださったのです。

二社から合計で千五百個になりました。
フードバンクの活動を理解していただき、ご提
供してくださいました。本当に有り難うござい
ました。鈴廣さんは小田原商工会議所さんが進
められている「フードドライブ」にご賛同された
ということもあります。

しかし、いただいたカマボコは冷蔵商品で、賞
味期限が一月七日ですですのですぐに配ってしまわ
なければなりません。大車輪で、喜んでもらって
いただける先に配る仕事が始まりました。

小田原市・開成町・箱根町の母子会に呼びかけ
て臨時の配布会を行いました。また、児童養護
施設三カ所に届けました。全国ブランドの高級
なカマボコですので、どこでもとても喜んで受け
取っていただけました。平塚や沼津で生活が苦し
い家庭を支援しているグループにも呼び掛け
取りにきてもらいました。

生活が苦しいご家庭では特に正月用の料理を
用意できなかったところも多いことを知りまし
た。まして高級なカマボコを買い揃えることはで
きません。

何人か直接支援しているご家庭にも声をかけ
ました。コロナ禍でご主人の収入が大幅に減り、
ご本人も病気がちで働けなくなった奥さんが受
け取りに来られました。報徳食品支援センター
の冷蔵庫を開け、目の前に並んでいるカマボコと
伊達巻をお見せしましたら、ポロポロと涙を流
されました。「コロナの前は、お正月には、このブ
ランドのカマボコを必ず用意していました。今は
カマボコも買えません。」生活の激変ぶりを改め
て思い起こされたようでした。お子さんも何人
かおられるようなのでたくさんお渡ししました。
「今日は、このカマボコでもう一度お正月です。」
と言って帰られました。カマボコを通じて知った
厳しい現実でした。コロナが去って、以前の生活に
戻ることができるようになれば良いですね。私
達もお手伝いを続けます。

報徳食品支援センター 食と心の救急車

当センター理事 近藤克明

田嶋理事長とのご縁から報徳食品支援センター
をお手伝いすることになりました。昨年の初め
から週2回月曜日、水曜日に 顔を出して、奉
仕作業をしています。

主な仕事は、大量に届く各種食品の入荷と出荷
の力作業と、センター内の整理・整頓などです。

当センターも認知度が上がり、地元の“タウンニ
ユース”に至っては有料・無料の記事が紙面を賑
わせています。その為か新規の問合せが舞い込む
ようになって来ており、「すみません、明日食べ
るものが無いんです。」といった悲痛な声も混じ
つてきています。そこで私の仕事の一つ増えまし
た。SOS 係の仕事です。電話をかけてこられた方
のところを訪問し、食品を届けるのです。救急車
のような仕事です。

電話をかけてくるのは、生活に困っている人だ
けではありません。特に全く知らない人からの
食品提供依頼への対応にはそれなりの勇気がい
ります。特別な体格、武道を備えている訳でも
ありませんが、何時の間にか何故か私の仕事に
なつて来ました。本当に生活に困って直接当セン
ターに問い合わせされる方達に食品をお届けす
る仕事です。
訪問すれば、先方から語りかけてきます。一人
きりの生活で、普段人と話をしていないのかわし
れません。聞くとともに、先方より話しかけて
きます。独り暮らしの高齢者の方は特に話しか
けてくるようです。

問わず語りに語る話は、人生のはかなさです。
一流企業に勤め高収入を得て、いい暮らしをして
いても、ひとたび病に侵され、会社を辞め、家族
もばらばらになり、生活に困る事になります。
このような話は少なくありません。高齢者にな
って、年金だけで暮らしていけない方も多くいら
れます。

そして、食品を届ける時の何気ない会話が心の支えにもなっているようです。食品だけでなく、私の訪問も感謝されています。私も含め、益々報徳食品支援センターは心の救急車にもなっている様に思えます。

みんなで支えよう

フードバンクとフードドライブ

地域と地球のため

「フードバンク」は、主に食品企業・流通業者や農家から発生する、まだ十分食べられるのに余っている食品を寄贈してもらい、集められた食品は生活に困窮している方々に無料配布しています。フードバンクでは食品の収集・保管・管理・配布までの一連の活動全般を行います。私たちが報徳食品センターもフードバンクです。



「フードドライブ」は、企業・食品業者・農家だけではなく、広く家庭で余っている食物を持ち寄り集めて、地域の福祉団体や、フードバンク等へ寄付します。そして、地域の生活に困っている方々に提供されます。フードバンクは集まった食品の保管・管理・配布を担当します。

両方とも食品ロスの削減、困っている方の救済を目的にしていますその意味では食品提供の範囲が広がったと言えます。この活動は、国の法律

「食品ロス削減推進法(消費者庁)に位置付けられています。

そして神奈川県も、SDG'sの一環のフードロス削減の一環として、各家庭・各企業で使い切れない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめてフードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄贈する「フードドライブ活動」を応援しています。これらの食品を受け取り、生活に困っている方々にその食品を配る地域の食支援団体(フードバンク(フードパントリー))として、私たちが報徳食品支援センターも神奈川県が神奈川県ホームページに記載されています。

この県の活動を受けて小田原箱根商工会議所さんと当センターが連携してフードドライブを推進しています。

この年明けから市内・神奈川県西地域の企業から食品の提供を受けています。

さらにこのフードドライブ活動に参加された日本新薬(株)小田原総合製剤工場さんが、社員から寄付された食品をご持参してくださいました。また、南足柄市の富士フィルムビジネスイノベーション(株)(旧名富士ゼロックス)さんもフードドライブ活動に参加されこれから社員に協力を呼びかけられます。

小田原市内だけでなく、周辺の企業さん・業者さんも、

さらには一般のご家庭の方々も食品のご提供よろしくご協力お願い申し上げます。



またまた 王将さんのお弁当

昨年夏休み「餃子の王将」さんがお子様弁当を、満足に食事ができていない子ども達に無償で配られました。この冬休みにもお正月前後を挟んで十二月二十日から一月十八日まで再び行われました。年末年始のあわただしい時でしたが、小田原店、平塚駅西口店、沼津店から八団体に合計千二百食が配られました。カルピスウォーターも付いていたので受け取った子ども達は大喜びでした。王将さん 有り難うございました。



編集後記

来月は、報徳食品支援センターで活動している若い??ボランティアの感想をお届けします。